

# セラミタイトリシン

無機高分子リシン

特長  
 用途  
 荷姿

危険情報と安全管理  
 標準施工仕様

性能試験成績表

セラミタイトリシンは、水性一液タイプの無機高分子をベースとし、塗膜の不燃化、低温での乾燥性を高めた砂壁状吹付材です。バインダーは微粒子で構成されているため、下地への浸透性に優れ、高い密着性を示します。この他、使用時混合形の砂壁状吹付材として、セラミタイトリシンベースもあります。

1. 防火性に優れています。
2. 耐久性及び耐汚染性に優れています。
3. 下地との密着性に優れています。
- ① 住宅・マンションなどの内外装
- ② 店舗・事務所・工場・倉庫などの内外装
- ③ 学校など公共施設の内外装
- ④ 汚染の著しい地域や防火地域の外壁

セラミタイトリシン 20kg 石油缶  
 (12~15㎡/缶)  
 水性ミラクシーラーエコ 15kg 石油缶  
 (クリヤー・ホワイト) (115~150㎡/缶)

使用時混合形：  
 セラミタイトリシンベース 20kg 石油缶  
 専用骨材シボサンド 20kg 袋

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート (SDS) に従ってください。特に★印のついている製品は溶剤形のため、P9の「危険情報と安全対策」をよくお読みください。  
 (新築仕様) (23℃)

工程	材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/㎡)	塗回数	間隔時間 (hr)			備考
					工程内	工程間	最終養生	
下地調整	●下地はよく乾燥させ、含水率10%以下・pH10以下としてください。 ●付着物は完全に除去し、傷・不陸・目違いなどは補修調整してください。							—
1 *1,2,3,4 下塗り	水性ミラクシーラーエコ (クリヤー・ホワイト)	既調合	0.10~ 0.13	1	—	2以上	—	ローラー、刷毛 エアレススプレーガン 吐出量600~1000ml/分 パターン幅25~30cm
2 *1 主材塗り	セラミタイトリシン	100	1.3~ 1.6	1~2	2以上	—	16以上	リシンガン 口径4~6mm 圧力392~588kPa (4~6kgf/cm <sup>2</sup> )
	清 水	0~5	—					

- ※1. 「所要量」は塗装条件などにより異なりますが、被塗装面に付着させる塗料の「標準塗付け量」は水性ミラクシーラーエコ (クリヤー・ホワイト) で「0.08~0.10kg/㎡」、セラミタイトリシンで「0.9~1.1kg/㎡」となります。各材料の使用数量などを算出する際には「所要量」を基準としてください。
- ※2. 改装時の下塗材の所要量は、0.10~0.30kg/㎡となります。
- ※3. 下地の種類によっては、下塗材の選定が必要となります。特に押出成形セメント板・GRC板・PC部材などには、下塗材として★エスケーハイブリッドシーラーEPO (クリヤー・ホワイト、15kgセット)、★マイルドシーラーEPO (クリヤー・ホワイト、14kgセット) または★ミラクシーラーEPO (15kgセット) をご使用ください。なお、軽量PCへの施工は避けてください。また、内装の新築仕様において、仕上材 (主材) の種類によっては、★マイルドシーラーEPO-II (14kgセット) もご使用いただけます。詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせください。
- ※4. 水性ミラクシーラーエコは、他の水性塗料が混ざるとゲル化することがあります。他の材料との混合や、刷毛、ローラー、エアレスなどの塗装器具の共用は避けるとともに、同じ洗い水での塗装器具の洗浄は行わないでください。
- ※5. セラミタイトリシンには、材料の特性上、多少の臭気があり、内装で使用する場合には、換気に十分配慮してください。
- ※6. 防火認定仕様、または公共建築工事標準仕様 (新築・改修) につきましては、最寄りの各営業所へお問い合わせください。なお、防火認定仕様は塗付け量が基準となります。「塗付け量」は「実際に塗着している塗装材料の重量」のことであり、「所要量」とは意味合いが異なりますのでご注意ください。

JIS A 6909 建築用仕上塗材 外装薄塗材Siによる物性結果

試験項目	結果	品 質
低温安定性	合格	塊がなく、組成物の分離及び凝集がない。
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	合格	ひび割れがない。
付着強さ N/㎡	標準状態	0.5以上
	浸水後	0.3以上
温冷繰返し	合格	試験体の表面に、ひび割れ、剥がれ及び膨れがなく、かつ、著しい変色及び光沢低下がない。
透水性 A 法 mm	合格	20.0以下
耐洗浄性	合格	剥がれ及び摩耗による基板の露出がない。
耐衝撃性	合格	ひび割れ、著しい変形及び剥がれがない。
耐アルカリ性 A 法	合格	ひび割れ、剥がれ、膨れ及び軟化溶出がなく、浸さない部分に比べて、くもり及び変色が著しくない。
耐候性 A 法	合格	ひび割れ及び剥がれがなく、変色の程度はグレースケール3号以上とする。

# 注 意 点

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート（SDS）に従ってください。

本パンフレットでは、一般的な施工仕様を記載しています。下地の種類及び状況、用途などにより仕様が変わることがあります。

詳しくは、最寄りの各営業所へお問い合わせいただくか、それぞれの施工要領書を別途ご参照ください。

- ALCパネル、多孔質下地、粗面、その他、下地に問題がある場合には、カケンフィラー（粉体/20kg袋、混和液/10kg石油缶）、またはミラクフアンドKC-1000（粉体/20kg袋、混和液/5kgポリ容器）などで下地調整を行ってください。なお、改装工事には、ミラクフアンド各種をご使用ください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存のパターンに合うように既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改装工事に溶剤形の下塗材をご使用の場合は、溶剤などの影響により旧塗膜を侵し、膨れ、ちぢみなどの異状が発生することがあります。試し塗りにより確認の上、本施工に入ってください。
- 防かび、防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、防かび、防藻性が十分に発揮されない場合があります。
- かびや藻が付着している場合は、SKKカビ除去剤#5（塩素系）にて拭き取るなど、適切な下地処理をしてから塗装してください。
- 所要量は被塗物の形状、素地の状態、塗装方法、気象条件、希釈率等の各種条件により増減します。
- 塗り重ね時間は環境（温度、湿度、換気、風通しやすさ）や膜厚によって変わります。
- 低温又は高湿度時には、乾燥が遅くなりますのでご注意ください。
- 補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 補修塗りの際、仕上がり肌の違いにより、色目に若干の差を生じる場合がありますので、部分的に仕上がり性を確認した上で希釈量等を決定してください。
- シーリング材の上へ施工する場合、シーリング材の種類、材齢により塗膜が密着しないことや汚染することがあります。
- 間隙が広いなど、大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますので、なるべく避けてください。
- 陶磁器タイル洗浄用の酸が塗装面に付着すると、変色や溶解などの異状を生じることがありますので、これを防止するため、予め塗装面の養生を行ってください。
- 塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥がれ、白化、しみの発生につながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
- 強風時、または降雨、降雪のおそれがある場合、及び気温5℃以下、湿度85%以上での施工は原則的に避けてください。気温5℃以下の施工が要求される場合は、採暖及び採暖のための養生により雰囲気温度、被塗面温度を5℃以上にしてください。冬期においては、施工条件が特に厳しくなる場合があるため、事前に関係者と十分な打ち合わせを行ってください。
- 材料は使用前に内容物が均一になるように十分に攪拌し、開栓後は速やかに一度に使い切ってください。また材料を保管する場合は、無希釈の材料をしっかりと密栓してから直射日光を避けた冷暗所にて保管し、できるだけ早めに使い切ってください。
- 性能に支障をきたす可能性がありますので、当社指定以外の材料を混ぜないでください。

# 危険情報と安全対策

製品の取り扱い、それぞれの安全データシート（SDS）に従ってください。  
すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないでください。

## 各種共通

- [ 応 急 処 置 ]  蒸気を吸入した場合は、空気の清浄な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。その後、医師の診断を受けてください。  
 誤飲した場合は、直ちに医師の診断を受け、無理に吐かせないでください。  
 眼に入った場合は、清浄な水で十分洗い流し、痛みが残る場合は医師の診断を受けてください。  
 皮膚に付着した場合は、付着した衣服等は直ちに脱ぎ、清浄な水で皮膚を洗ってください。炎症や刺激がある場合は医師の診断を受けてください。  
 漏出した場合は、漏出物を速やかに回収してください。
- [ 廃 棄 ]  廃材、容器、養生材、ウエス等は、自分で破棄・焼却せず、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。  
 容器に中身を残したまま廃棄したり、火気を当てたりしないでください。  
 有害物質を含みますので、排水路・下水・河川への排出及び地下浸透をしないでください。
- [保管及び取り扱い]  容器を密封し、凍結・直射日光を避け、5～40°Cの乾燥した換気の良い場所、及び部外者や子供が入りできない場所に一定の管理の出来る場所を定め、施錠して保管してください。  
 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあり、危険です。（製品の種類によって異なる注意事項は、別途、種類別に記載してありますので、参照してください。）
- [ 安 全 衛 生 ]  製品の種類によって異なります。別途、種類別に記載してありますので、参照してください。  
 取り扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
- [ 施工後の注意 ]  本製品には揮発性の化学物質が含まれております。塗装直後の引渡し等において、化学物質過敏症やアレルギー体質の方への安全対策に十分留意してください。

## 溶剤形塗料

溶剤形塗料は特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
  2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
  3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。
- ※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]  保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。  
 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。  
 ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。  
 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [ 安 全 衛 生 ]  ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。  
 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。  
① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。  
② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。  
③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気やミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。  
④ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。  
 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

## 硬 化 剤

硬化剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
  2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
  3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。
- ※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]  保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。  
 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。  
 ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。  
 消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- [ 安 全 衛 生 ]  ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。  
 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。  
① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。  
② 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。  
③ 取り扱い中は皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防塵マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。  
④ 皮膚に付着した場合は、速やかに大量の水で洗ってください。また、大量の蒸気を吸入した場合は、速やかに医師の診断を受けてください。  
⑤ 作業衣などに付着した場合は、その汚れをよく落としてください。  
⑥ 液がこぼれた場合は、中和剤を散布した後で処理してください。  
 施工においては、溶剤成分が室内に流入しないように十分注意してください。

## 希釈用溶剤

希釈用溶剤は、特に下記の点にご注意ください。

1. 引火性可燃物ですので、火気厳禁です。
  2. 有機溶剤中毒や皮膚障害を起こすおそれがあるため、取り扱い時は保護具を着用してください。
  3. 業務用「塗料」ですので、本来の用途以外には使用しないでください。
- ※屋内作業等、使用環境によっては、特定化学物質障害予防規則、有機溶剤中毒予防規則等の規制を受ける場合があります。詳しくは別途、施工仕様書等をご確認ください。

- [保管及び取り扱い]  保管場所及び取り扱い場所とその周辺は、塗装中・乾燥中ともに熱／火花／裸火／高温体のような着火源を遠ざけ火気厳禁としてください。特に乾燥中は蒸発の面積が広がるため、短時間に多量の引火性の高い蒸気が発生しますので、注意してください。
- 合成樹脂などの電気絶縁性の床での保管や取り扱いをしないでください。また、導電靴や帯電防止の衣服を着用してください。
- ご使用の場合、使用機器（電気機器／換気装置／照明機器／工具等）は防爆型及び導電型のものを使用し、アースを取ってください。
- [安全衛生]  消火には粉末、二酸化炭素、泡消火器または水を噴霧してください。棒状の水を直射すると飛散して危険です。
- ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。特に、荷姿欄に★印のついている製品は溶剤形で引火性可燃物の為、火気厳禁です。
- 揮発性の溶剤を含むため、皮膚に触れたり蒸気を吸入すると、皮膚障害や中毒を起こすおそれがありますから取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
- ① 取り扱い場所には局所排気装置を設けてください。
  - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。
  - ③ 容器から出し入れする時は、こぼれないようにしてください。
- 施工においては、溶剤成分が室内に入らないように十分注意してください。

## 水性塗料

- [安全衛生]  ご使用前には、製品容器に記載の注意事項をよくお読みください。
- 水性塗料（荷姿に★印のついていない製品）の取り扱いには以下の注意事項を守ってください。
- ① 取り扱い場所は換気をしてください。
  - ② 取り扱い中には皮膚に触れたり、蒸気ミストの吸入を避けてください。必要に応じ、防毒マスクまたは送気マスク、保護メガネ、不浸透性の保護手袋、前掛け等を着用し、また、顔・手・腕には保護クリームを塗って直接皮膚に触れないようにしてください。